

## 特別企画目次

### 日臨技企画

第1日目（10月21日）第7会場

<13:30~15:30>

【S-1】2023年、臨床検査技師の将来を考える

宮島 喜文（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 代表理事会長）

【S-2】日臨技 精度保証の方向性

滝野 寿（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 専務理事）

### 日臨技企画2

第1日目（10月21日）第7会場

<15:40~17:00>

学生フォーラム「臨床検査技師の未来像」

1. 臨床検査技師の未来

勝山 政彦ほか

### 3団体合同企画「R-CPC」

第2日目（10月22日）第8会場（大会議室）

<10:00~11:00>

【S-3】3団体合同企画 RCPC

## シンポジウムⅠ 微生物

第1日目(10月21日)第1会場(鳳凰の間(東))

<14:50~16:50> 「微生物検査の現状と課題～検査の標準化を目指して～」

微生物検査分野は検査の標準化がなかなか進んでいない分野とされているが、標準化をすすめるためには現状を知るための調査が有用である。今シンポジウムに際し、2012年の近畿学会(和歌山県白浜町)にて開催された微生物検査アンケートを基に改めてアンケート調査を実施し、この10年における微生物検査の変化や現状を把握する。その上でこの10年分の解析を実施し、今後5年10年先を見据えて、今現在の微生物検査の在り方を考える場としたい。

座長：山田 幸司(京都府立医科大学附属病院 臨床検査部)  
口広 智一(公立那賀病院 臨床検査科)

- 【S-4】 1. 「検査前プロセスと塗抹検査」  
中尾 歩美 (日本赤十字社和歌山医療センター 検査部)
- 【S-5】 2. 「菌種同定～質量分析や遺伝子検査を含めて～」  
木下 愛 (滋賀医科大学附属病院 検査部)
- 【S-6】 3. 「薬剤感受性検査・耐性菌検査」  
寺前 正純 (兵庫県立がんセンター 検査部)
- 【S-7】 4. 「血液培養対応・総合コメント」  
大瀧 博文 (関西医療大学 保健医療学部 臨床検査学科)

## シンポジウムⅡ 生物化学検査

第1日目(10月21日)第2会場(鳳凰の間(中))

<14:50~16:50> 「生化学・免疫化学担当技師の立場から考える組織貢献」

タスクシフト/シェアに代表されるように、臨床検査技師も他の医療従事者と同様、あらゆる面での組織貢献を求められている。検査室内での業務において、効率性を意識しつつより良質な検査結果を報告するための取り組みは今後も必要とされる。また、検査室の外で多職種とコミュニケーションを取りながら活動することも重要な業務となっている。本シンポジウムでは生化学・免疫化学担当技師の強みを活かした取り組みをご紹介いただき、検査室の中と外それぞれの面からできる組織貢献について考えるきっかけとなるような企画としたい。

座長：渡邊 勇気(神戸大学医学部附属病院 検査部)  
井尻 健太郎(淀川キリスト教病院 臨床検査課)

- 【S-8】 1. 「結果報告から考える臨床現場への貢献①」  
倉村 英二(天理よろづ相談所病院 臨床検査部)
- 【S-9】 2. 「結果報告から考える臨床現場への貢献②」  
堀端 伸行(和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部)
- 【S-10】 3. 「チーム医療に貢献するための生化学・免疫化学担当技師の取り組み①」  
小泉 昌寛(大阪医科薬科大学病院 中央検査部)
- 【S-11】 4. 「チーム医療に貢献するための生化学・免疫化学担当技師の取り組み②」  
齊藤 健太(公立甲賀病院 臨床検査課)

## シンポジウムⅢ 生理検査

第1日目(10月21日)第3会場(鳳凰の間(西))

<14:50~16:50> 「見極めるコツ!!見落としやすい所見、間違いやすい所見」

超音波検査は非侵襲的に様々な目的で実施される検査です。しかし検者の知識や技術に依存する一面もあり、日々習熟が必要です。「見落としやすい所見」「間違いやすい所見」に遭遇し、苦い経験をされた方も少なからずいらっしゃると思います。そんな時、先輩技師はどのように見極めてきたのか、現場で積み上げた「匠の技術やノウハウ」について学び、これからの検査に活かして頂きたいです。

座長：栗岡 利里子 (奈良県総合医療センター 臨床検査部)  
野村 亜希 (福井大学医学部附属病院 検査部)

- 【S-12】1. 「心臓超音波 編」  
大前 嘉良 (紀南病院 中央臨床検査部)
- 【S-13】2. 「腹部超音波 編」  
松崎 俊樹 (姫路赤十字病院 検査技術部)
- 【S-14】3. 「血管超音波 編」  
栗本 明典 (済生会滋賀県病院 臨床検査科)
- 【S-15】4. 「甲状腺・乳腺 編」  
尾花 康子 (一般財団法人京都工場保健会 技術部 検査課)

## シンポジウムⅣ 一般検査

第1日目(10月21日)第4会場(孔雀の間(東))

<14:50~16:50> 「緊急検査・救急医療における尿検査」

尿検査の歴史は古く紀元前の時代から病気を知る手がかりとして観察され、現代もその重要性は変わらず必要不可欠な検査として位置づけられています。尿検体は、患者に苦痛をほとんど与えずに採取でき、得られる情報が多いにもかかわらず緊急検査として検査されていない施設も多くあります。今回、救急医療における緊急検査としての尿検査の現状、問題点、そして今後を考えたいと思います。

座長：武田 泉 (福井大学医学部附属病院 検査部)  
大沼 健一郎 (神戸大学医学部附属病院 検査部)

- 【S-16】1. 「尿定性/尿沈渣検査のエマージェンシーとは」  
(ヘモグロビン尿・ミオグロビン尿・尿細管上皮・円柱など)  
野崎 聖恵 (長吉総合病院 臨床検査科)
- 【S-17】2. 「日当直帯の尿検査に必要なこと(アンケート結果報告)」  
磯貝 好美 (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部)
- 【S-18】3. 「尿化学検査」  
和田 哲 (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部)
- 【S-19】4. 「救急現場と尿検査」  
是枝 大輔 (日本赤十字社和歌山医療センター 救急科・集中治療部)

## シンポジウムⅤ 血液検査

### 第2日目（10月22日）第1会場（鳳凰の間（東））

<14:20～16:20> 「血液検査の付加価値を考える～臨床と連携できる検査技師を目指して～」

昨今、ただ単に検査結果を報告するだけでなく、臨床にとって有益となるような付加価値のある情報を提供し、より臨床と密に連携をとることが検査技師にも求められている。本シンポジウムでは、日頃の業務においてどのように臨床と連携しているのか、自施設での取り組みを紹介していただく。また、血液内科の医師にもご登壇いただき、臨床側の視点も交えながら、血液検査に求められる付加価値について議論する場としたい。

座長：小山 明日美（紀南病院 中央臨床検査部）

橋口 篤（大津赤十字病院 検査部）

【S-20】1. 「血算・血液像における連携」

神原 雅巳（社会医療法人中央会尼崎中央病院 検査部）

【S-21】2. 「凝固検査における連携」

黒瀬 知美（福井大学医学部附属病院 検査部）

【S-22】3. 「骨髄検査における連携」

田辺 祐也（京都第二赤十字病院 検査部）

【S-23】4. 「血液内科医の視点から」

蒸野 寿紀（和歌山県立医科大学附属病院 血液内科）

## シンポジウムⅥ 輸血検査

### 第2日目（10月22日）第2会場（鳳凰の間（中））

<14:20～16:20> 「臨床検査技師の輸血教育について」

昔より教育は重要であったが、近年、学生の臨地実習関係の大改正による受け入れ施設での臨地実習指導者設置の必須化や、ISO15189による力量評価等の教育の記録を求められるなど、職場での教育そのものの流れが変わってきているように感じる。今回は様々なお立場の講師をお招きし、職場での教育の実際や苦労話などを話していただき、今後の職場での教育活動の糧になれば良いと考える。

座長：渡辺 純也（福井赤十字病院検査部輸血課）

富坂 竜矢（和歌山県立医科大学附属病院輸血部）

【S-24】1. 「輸血非専任技師の輸血教育について」

小川 久美子（長浜赤十字病院検査部）

【S-25】2. 「院内技能評価による時間外勤務スタッフ教育について」

濱田 莉加（府中病院臨床検査室）

【S-26】3. 「教育を通して考える輸血部専任技師に必要なこと・求められること」

大前 和人（奈良県立医科大学附属病院輸血部）

【S-27】4. 「輸血専任中堅技師以上の教育について」

奥田 典子（兵庫医科大学病院臨床検査技術部 輸血・細胞治療センター）

## シンポジウムⅦ 生理検査

第2日目（10月22日）第3会場（鳳凰の間（西））

<14:20～16:20> 「生理検査室の新しいカタチ」

臨床検査技師を取り巻く環境は日々変化し、それに伴い生理検査室も柔軟に対応していくことが今後の課題ではないかと思われます。しかし実際のところどうすればよいのか？なかなか手探り状態の方も多いと思われます。そこで今回は「臨地実習」、「若手教育」、「新型コロナウイルス感染症対策」、「タスク・シフト/シェア」の4つのトピックスについて、生理検査室における新しいカタチを考えていきます。各施設の取り組みや今後の展望等について学んでいただき、悩まれている方の解決の一助になればと思ひます。

座長：山崎 功次（社会医療法人ペガサス馬場記念病院 検査部 生理検査室）  
湯川 有加（日本赤十字社和歌山医療センター 検査部）

- 【S-28】1. 「臨地実習のカタチ」  
桑野 和代（天理よろづ相談所病院 臨床検査部）
- 【S-29】2. 「若手教育のカタチ」  
藤澤 義久（滋賀医科大学附属病院 検査部）
- 【S-30】3. 「新型コロナウイルス感染症対策のカタチ」  
齋藤 清隆（福井大学医学部附属病院 検査部）
- 【S-31】4. 「タスク・シフト/シェアにむけてのカタチ」  
山田 雅（京都市立病院 臨床検査技術科）

## シンポジウムⅧ 病理細胞検査

第2日目（10月22日）第4会場（孔雀の間（東））

<14:20～16:20> 「ISO15189 試薬や毒劇物の管理、医療安全、部屋の写真や工夫の紹介など」

ISOでは法令に準拠することが基本であり病理検査においても特定化学物質障害予防規則（特化則）や有機溶剤中毒予防規則（有機則）、毒物及び劇物取締法など様々な法令に沿った試薬管理が求められる。今回のシンポジウムでは毒劇物の管理を含めた医療安全、試薬管理方法など各施設の工夫点などを学び、より安全な病理検査室運営についての知識取得を目的とする。

座長：岡山 はるみ（公立丹南病院 臨床検査室）  
奥村 寿崇（日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部）

- 【S-32】1. 「病理検査室の品質管理～ISO15189 認定取得前と後～」  
松本 ひかり（彦根市立病院 臨床検査科）
- 【S-33】2. 「ISO15189 認定取得後3年目の病理検査室における試薬、毒劇物の管理」  
小笠原 創也（京都第二赤十字病院 検査部）
- 【S-34】3. 「当院における化学物質の取り扱い」  
西川 武（奈良県立医科大学附属病院 病院病理部）
- 【S-35】4. 「当社における試薬管理等の工夫」  
小林 真（株式会社兵庫臨床検査研究所 HPL 検査部）

## 教育講演Ⅰ 微生物検査

### 第1日目（10月21日）第1会場（鳳凰の間（東））

<13:40～14:40> 「抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動に役立つ微生物検査」

チーム医療の一つである抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動において、臨床検査技師の役割は非常に重要である。特に微生物検査の結果は抗菌薬の使用に大きな影響を与えるため、迅速かつ正確な検査報告が必要となる。医師の目線からみて、本当に役立つ微生物検査結果のポイントを学び、日々のAST活動に役立つ検査の構築に役立てていただきたい。

座長：中村 竜也 （京都橘大学 健康科学部 臨床検査学科）

【S-36】 「理想のASTを目指して」

小泉 祐介 （和歌山県立医科大学附属病院 臨床感染制御学講座）

## 教育講演Ⅱ 生物化学検査

### 第1日目（10月21日）第2会場（鳳凰の間（中））

<13:40～14:40> 「明日から使える自動分析装置の知識」

免疫化学検査に携わる技師にとって、自動分析装置を扱うことは必要不可欠な業務である一方で、装置の仕組みや機能を把握せずに扱っているケースも少なくない。最近の装置はユーザビリティがよく不慣れな人にも扱いやすいが、それ故に装置について学ぶ意識が薄れている側面もある。本セッションでは生化学・免疫血清それぞれの自動分析装置について、仕組みや機能、取扱いで注意するポイントなどを学び、明日からの業務をより意欲的に取り組む機会としていただく。

座長：松村 充子 （公益財団法人 天理よろづ相談所 医学研究所）

松田 哲明 （大津赤十字病院 検査部）

【S-37】 1. 「日常業務で役立つ分析装置の基礎 生化学分析装置について」

福井 直希 （大阪市立総合医療センター 医療技術部 臨床検査部門）

【S-38】 2. 「日常業務で役立つ分析装置の基礎 免疫血清分析装置について」

岡崎 一幸 （京都大学医学部附属病院 検査部）



## 教育講演Ⅲ 生理

### 第1日目（10月21日）第3会場（鳳凰の間（西））

<13:40～14:40> 「継承する心電図判読のコツ！」

心電図検査は生理機能検査のなかで、おそらく最初に始める検査であり、最も身近な検査ではないでしょうか。しかし、いざ心電図を判読するとなると苦手と感じている方も多いと思われます。そこで今回は心電図の判読を「リズム異常 編」「冠動脈疾患 編」にわけて、心電図波形の考え方や、判断するポイントなど心電図の判読のコツを学んで頂き、苦手意識を克服していただきたいです。

座長：中島 辰也（淡海医療センター 検査診療部）

【S-39】1. 「リズム異常 編」

齊藤 直輝（市立豊中病院 臨床検査部）

【S-40】2. 「冠動脈疾患 編」

沼田 智志（大阪赤十字病院 臨床検査科部）

## 教育講演Ⅳ 一般検査

### 第1日目（10月21日）第4会場（孔雀の間（東））

<13:40～14:40> 「髄液検査の新たなカタチ」

髄液検査は医療技術が進歩している中においても髄膜炎や脳炎などの各種神経系感染症および白血病や悪性腫瘍などの診断や治療に欠くことのできない検査です。近年、新たに開発された多項目遺伝子関連検査において脳脊髄液が対象検体となったことを受け、改めて髄液検査を基礎から学びたいと思います。

座長：新井 未来（済生会滋賀県病院 臨床検査科）

藤内 千歳（京都第二赤十字病院 検査部）

【S-41】1. 「髄液検査の意義と Multiplex PCR の有効性について」

北川 大輔（奈良県総合医療センター 臨床検査部）

【S-42】2. 「髄膜炎診療における臨床検査の活用の実際」

西原 悠二（奈良県立医科大学附属病院 感染症センター）

## 教育講演Ⅴ (血液検査)

第 2 日目 ( 10 月 22 日 ) 第 1 会場 ( 鳳凰の間 ( 東 ) )

<13:10~14:10> 「WHO 分類第 5 版改訂のポイント ( 骨髄系腫瘍 ) 」

血液検査業務に携わる技師にとって、造血器腫瘍の WHO 分類に関する知識を身に付けることはとても重要である。このたび WHO 分類第 5 版が刊行されたことを踏まえ、改訂第 4 版からの変更点について、とくに骨髄系腫瘍に内容を絞って解説していただく。

座 長：梅村 茂人 ( 滋賀県立総合病院 臨床検査部 )  
水谷 陽介 ( 日本赤十字社和歌山医療センター 検査部 )

- 【S-43】 1. 「WHO 分類第 5 版 AML、MPN のオーバービュー」  
永井 直治 ( 公益財団法人天理よろづ相談所病院 臨床検査部 )
- 【S-44】 2. 「WHO 分類第 5 版 MDS、MDS/MPN のオーバービュー」  
吉川 慎一 ( 地方独立行政法人市立吹田市民病院 臨床検査部 )

## 教育講演Ⅵ 輸血検査

第 2 日目 ( 10 月 22 日 ) 第 2 会場 ( 鳳凰の間 ( 中 ) )

<13:10~14:10> 「輸血用血液製剤の運用と安全性の両立及び遡及調査について」

輸血検査は、患者の安全のためや製剤の有効利用のために製剤の適正使用や検査のガイドラインが整備されており、日々更新されている。特に、血液センターは長い歴史の中で、安全な輸血用血液製剤の提供のために日々最新の情報を発信し、その内容がアップデートされている。今回、血液センターの方に最新の話題や知見を講演していただき、我々の知識をアップデートできたら良いと考える。

座 長：坊池義浩 ( 神戸学院大学栄養学部臨床検査学専攻 )

- 【S-45】 「輸血用血液製剤の安全性と遡及調査、実運用について」  
後藤直子 ( 日本赤十字社血液事業本部技術部 )



## 教育講演Ⅶ 生理検査

### 第2日目（10月22日）第3会場（鳳凰の間（西））

<13:10～14:10> 「継承する脳波検査の工夫」

脳波検査は脳の機能状態を簡便かつ無侵襲的に調べることのできる検査です。きれいな（正確な）脳波を記録することは臨床上、重要な役割となります。そこできれいな脳波を記録するコツやテクニックを学んで頂きたいです。また脳死判定時の脳波記録はなかなか遭遇する機会も少なく、実際に記録するとなると不安の多い方もいると思います。そこでそんな時に慌てないように脳死判定時の脳波記録についても学び、非常時に対応できるようにして頂きたいです。

座長：増田 信弥（京都民医連中央病院 検査技術課）

【S-46】1. 「キレイな脳波を記録するポイント」

中塚 賢一（公立大学法人 和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部）

【S-47】2. 「不安を解決！脳死判定を理解する」

佐々木 一朗（神戸市立医療センター中央市民病院 臨床検査技術部）

## 教育講演Ⅷ 病理細胞検査

### 第2日目（10月22日）第4会場（孔雀の間（東））

<13:10～14:10> 「膵液、胆汁細胞診 LBC 標本の免疫染色実施時の工夫など」

近年画像診断の進歩により腫瘍径1cm以下の早期の癌がCT, MRI, EUS で発見されるようになった。しかし消化器領域は体の奥深くにあり熟練した医師が検体採取を行ってもその細胞量には限界がある。小さな病変から採取された微小な検体が提出される事も多い。えに消化酵素による影響を受けやすいが細胞診は治療方針の決定のために大きな役割をもつことより、細胞診断ポイントを解説する。また、近年消化器領域での液状化検体を用いた免疫染色も増加しつつあり、免疫染色時のポイントなどを解説する。

座長：鍵弥 朋子（関西医療大学 保健医療学部臨床検査学科）

【S-48】「当センターにおける消化器領域細胞診の現状」

棚田 諭（地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター  
臨床検査科 病理・細胞診）

## 学会セミナー目次

### ランチョンセミナー1

#### 第1日目(10月21日(土))第1会場

<12:20~13:20>ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

#### 1. 近未来への変革 臨床検査技師の期待役割

上野 英三(医療法人 徳洲会 岸和田徳洲会病院)

### ランチョンセミナー2

#### 第1日目(10月21日(土))第2会場

<12:20~13:20>日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

司会: 口広 智一(公立那賀病院)

#### 1. 血液培養検査における効果的な Diagnostic Stewardship の実践

大城 健哉(那覇市立病院)

### ランチョンセミナー3

#### 第1日目(10月21日(土))第3会場

<12:20~13:20>シーメンス・ヘルスケアダイアグノティクス株式会社

司会: 久保 光史(社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院)

#### 1. 「地域医療構想、診療報酬改定、タスクシフト」臨床検査室にできることは…

糸屋 英俊(シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)

### ランチョンセミナー4

#### 第1日目(10月21日(土))第4会場

<12:20~13:20>竹内化学株式会社

司会: 上野 智浩(国立大学法人 大阪大学医学部附属病院)

#### 1. 新型コロナウイルスのパンデミックを経験して

野尻 孝子(前 和歌山県福祉保健部技監 現 東京医療保健大学学事顧問 特任教授)

### ランチョンセミナー5

#### 第1日目(10月21日(土))第5会場

<12:20~13:20>積水メディカル株式会社

司会: 堀端 伸行(公立大学法人 和歌山県立医科大学附属病院)

#### 1. 間質性肺炎とバイオマーカーの臨床的意義

島田 愛(積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術企画グループ)

## ランチョンセミナー6

第1日目(10月21日(土))第6会場

<12:20~13:20>株式会社 LSI メディエンス

司会:大前 嘉良(紀南病院)

1. 凝固検査における苦慮した実例の対処法と最新のトピックス

下村 大樹(天理よろづ相談所病院)

## ランチョンセミナー7

第1日目(10月21日(土))第8会場

<12:20~13:20>アークレイマーケティング株式会社

1. 尿一般検査をスクリーニング検査と割り切ってしまうのでしょうか?

山西 八郎(天理大学 医療学部 臨床検査学科)

## ランチョンセミナー8

第2日目(10月22日(日))第1会場

<11:50~12:50>アボットジャパン合同会社

1. 卵巣癌腫瘍マーカーHE4の有用性と今後の可能性

南出 良平(アボットジャパン合同会社 診断薬・機器事業部 医学統括部)

## ランチョンセミナー9

第2日目(10月22日(日))第2会場

<11:50~12:50>シスメックス株式会社

司会:森下 陽子(日本赤十字社 和歌山医療センター)

1. フローサイトメトリーを用いた造血器腫瘍における臨床応用

岡 智子(日本赤十字社 和歌山医療センター 血液内科部)

## ランチョンセミナー10

第2日目(10月22日(日))第3会場

<11:50~12:50>富士フイルム和光純薬株式会社

司会:増田 詩織(近畿大学 奈良病院)

1. 肝疾患の早期発見・早期治療を目指す「奈良宣言2023」

山崎 正晴(奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部)

## ランチョンセミナー 11

### 第 2 日目 (10 月 22 日 (日)) 第 4 会場

<11:50~12:50>H.U. フロンティア株式会社

1. ルミパルスシステムを用いた、iTACT®法、低分子サンドイッチアッセイなどの次世代試薬  
石井 雄一 (富士レビオ株式会社 研究開発本部)

## ランチョンセミナー 12

### 第 2 日目 (10 月 22 日 (日)) 第 6 会場

<11:50~12:50>栄研化学株式会社

1. 一般検査における糞便検査の現状と将来  
阿久津 敏 (栄研化学株式会社)

## スイーツセミナー 1

### 第 1 日目 (10 月 21 日 (土)) 第 5 会場

<15:30~16:00>株式会社日立ハイテク

司会：船生 智子 (株式会社日立ハイテク ライフ&メディカルシステム  
営業本部 医用マーケティング部)

1. 日立ハイテクのモノづくり  
塩原 幸 (株式会社日立ハイテク ライフ&メディカルシステム営業本部 医用マーケティング部)

## スイーツセミナー 2

### 第 2 日目 (10 月 22 日 (日)) 第 5 会場

<15:00~15:30>株式会社イムコア

司会：上田 真弘 (国立大学法人 神戸大学医学部附属病院)

1. 新たな分子標的治療薬剤 抗-CD47 抗体が輸血前検査に及ぼす影響とその対処について  
丸本 宗正 (株式会社イムコア 学術企画部)